

平成16年度ホンモロコ標識放流効果調査

太田 滋規

◆背景・目的

激減したホンモロコの資源を回復させるため、現在、増殖対策として全長20mmの種苗放流が行われている。種苗放流をより効果的なものとするため、放流場所の検討として、今回、水試地先の犬上川河口域の放流を行った。

◆成果の内容・特徴

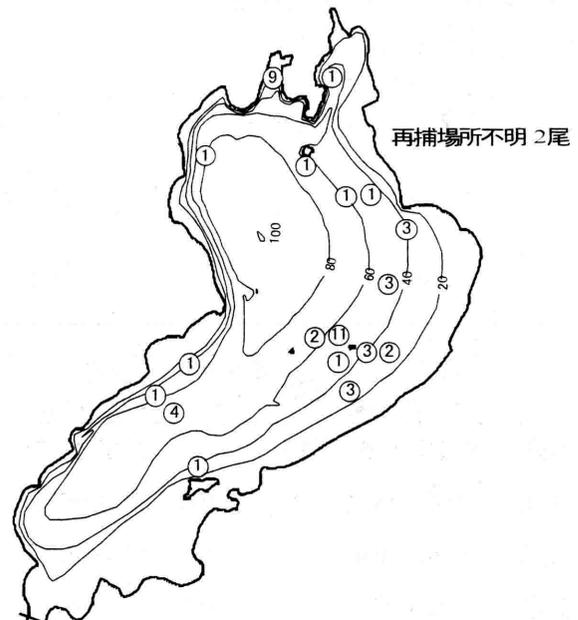
- 犬上川河口域にALC耳石標識を施した全長約20mmのホンモロコ稚魚を平成16年7月7日に116千尾、8月3日に141千尾の合計257千尾を放流した。
- 冬期に沖曳網漁獲による1,395尾の再捕調査を行った。
- 犬上川河口域に放流したホンモロコ稚魚の混獲率は比較的高く、また、再捕場所は彦根沖に多いものの、北湖の全域で再捕された。

◆成果の活用・留意点

- 犬上川河口域のような場所は砂地であり、比較的外来魚も少なく、ホンモロコの放流場所としては適地と考えられる。今後はより大量に放流することができるふ化仔魚やなるべく生産期間の短い魚の放流を行い、その効果を検証する。

沖曳網調査結果

	再捕尾数	混獲率(%)	放流尾数
3歳魚	1	0.07	
2歳魚	13	0.93	
1歳魚	109	7.81	
1歳魚栽培センター放流魚	1	0.07	
1歳魚卵保護放流魚	2	0.14	
0歳魚	1,070	76.70	
0歳魚栽培センター放流魚	87	6.24	1,067,000
0歳魚栽培センター内湖放流魚	2	0.14	
0歳魚犬上川河口域放流魚	51	3.66	257,000
冬期放流魚	59	4.23	59,000
総計	1,395		



水試犬上川河口域放流魚の再捕場所